

報 告

タイ・国際色彩コンファレンスから

矢 口 博 久 Hirohisa Yaguchi

国際交流委員会委員長

昨年秋、国際色彩学会（AIC）の池田会長から電話があり、タイで色彩学会を設立する動きがあり、その旗揚げの国際コンファレンスが計画されているので、日本色彩学会も何らかの形で後押しができないかとの相談を受けた。昨年スタートしたばかりの国際交流委員会としても国際貢献の絶好の機会と判断し、日本色彩学会から何人かの講演者を派遣することを理事会に諮り、承認を得た。幅広い分野から参加を打診し、大阪電気通信大学の富永昌治先生、金沢美術工芸大学の山岸政雄先生、早稲田大学の齋藤美穂先生と私の4人が日本色彩学会の代表として参加することになった。

国際コンファレンスは“Use of Color : From Fundamentals to Applications for the 21st Century”[21世紀における色彩の使途、基礎から応用まで]というテーマで、1999年4月2～3日の2日間、バンコクのソルツインタワーズホテルで開催された。主催はタイ色彩学会（Thai Color Group）とチュラロンコン大学画像印刷工学科で、AICと日本色彩学会が後援した。開会式では、チュラロンコン大学副学長のSurapone Virulak教授の歓迎挨拶に続き、チュラロンコン大学理学部のSakda Siripant教授の開会スピーチがあった。このスピーチでは本国際コンファレンスの目的として、色彩設計、管理、規格の推進、色の科学者とエンドユーザの交流、タイにおける色彩科学研究の活性化の3つがあげられた。その後、池田AIC会長の祝辞、日本色彩学会を代表して私が祝辞を述べた。引き続き、講演に入った。発表はタイから9件、日本から9件の合計18件であった。日本からは色彩学会派遣の我々4人の他、以前からチュラロンコン大学と研究援助を行っていた池田光男先生、千葉大学の三宅洋一先生、京都

工芸繊維大学の佐藤哲也先生、キヤノンの横溝良和氏らの講演もあり、大変盛況なコンファレンスとなった。講演プログラムは以下のようであった。

4月2日（金）

矢口博久：色覚と先進表色系

齋藤美穂：色の嗜好からの色の認識

山岸政雄：色の規制と景観保存；日本の今と21世紀に向けて

池田光男：照明認識視空間の概念による色の見えの説明

三宅洋一：デジタルハードコピーにおける色再現の最近の進歩

富永昌治：異なる電子デバイスによる画像の色再現

横溝良和：HYPERPHOTOシステムにおけるデジタルカラー画像処理

Santi Songsermsawas：印刷におけるカラーマネージメントの工程

Mingkhuan Sakulsripong：眼の疾病による人間の色知覚への影響

Vanna Tulyathan：食物の合成着色料の同定

4月3日（土）

Sakda Siripant：宝石の色表示及び伝達システム

佐藤哲也：繊維業界における色の物理

川人靖弘：色のエモーションの数値表現の試み

Duangrat Ngampadipatpong：タイの人々の色のエモーション尺度

Jakkai Siributr：カラーテクスタイル芸術の表現

Piyachart Trisansri：タイの自然植物における色素の研究

Nipaporn Soontornpikakkul : 古代チーク材文化財保護
のための表面コーティング材料

Supamas Engchuan : スコタイ文学における色のカテ
ゴリー

タイからの発表題目から見ても、色彩科学、芸術の
多岐に渡る分野において研究活動がなされていること
が分かる。この国際コンファレンスを機会に、これか
ら色彩研究におけるタイと日本の交流が活発になる
ことを望みたい。

今回の国際コンファレンスの計画、実行に携わった
実行委員会幹事をやられたチュラロンコン大学の
Aran Hansuebsai 先生、Pontawee Pungrassamee 先生
には宿泊の配慮から、空港までの送り迎え、また暑い
中でのアユタヤ見学と、すっかりお世話になってし
まった。心から感謝します。また、今回の日本色彩学
会からの4人のタイ派遣にはスガウエザリング出張助
成を受けました。この場をお借りして、感謝の意を表
します。



バンコクからアユタヤへの途中のサマーパレスにて（左から Aran Hansuebsai 先生、横溝氏、
富永先生、斎藤先生、矢口、山岸先生、Pontawee Pungrassamee 先生）